

第7回滋野地区地域づくり推進検討会議 議事録

開催日時：平成 24 年6月20日（水）
午後7時から午後9時10分
場 所：滋野コミュニティセンター

出席者：※○

J A信州うえだ滋野店店長	宮下 清行	○	赤岩区長	入口 和義	○
滋野地区活性化研究委員会会長	吉田 周平	○	片羽区長	荻原 薫	○
滋野地区活性化研究委員会副会長	唐澤 孝夫	○	桜井区長	寺島 義昭	○
滋野地区活性化研究委員会副会長	柳澤 幸徳	○	大石区長	土屋 建治	○
滋野地区活性化研究委員会副会長	関 勝人	○	滋野地区区長会長（中屋敷区長）	唐澤 孝夫	
滋野地区活性化研究委員会部会長	丸山 克寿	○	別府区長	小川原 雅	○
滋野地区活性化研究委員会部会長	高藤 征紀		原口区長	若林 朝登	○
滋野地区活性化研究委員会部会長	斉藤 紀正		聖区長	若林 敏雄	
生涯学習まちづくり滋野地区推進委員長 滋野地区活性化研究委員会部会長	麻見 明利	○	乙女平区長	日下部 安秀	○
交通安全協会滋野支会長	花岡 種男		王子平区長	小林 吉則	○
商工会滋野支会長	市川 實	○	出席者計 20名		
滋野地区青少年育成協議会会長	後藤 富美男		委員参加率 60.6%		
滋野小学校PTA会長	尾沢 治夫		委員参加率 60.6%		
滋野小学校PTA副会長	土屋 茂一		地域づくりアドバイザー 長野大学	山崎 隆之	○
滋野地区分館長会長	高橋 晴信	○	地域づくりアドバイザー 長野大学	河野 良治	○
道の駅駅長	唐澤 光章	○	事務局 企画課長	寺島 尊	○
中学校PTA支部長会長	小宮山 美穂	○	事務局 企画政策係長	小菅 武志	○
保健補導員会滋野地区会長	寺島 暁美		事務局 企画課主査	掛川 一郎	○
民生・児童委員会滋野地区会長	関 茂	○			
高齢者クラブ地区会長	掛川 恒雄				
消防団第2分団分団長	清水 隆晴				
消防団第2分団副分団長	長岡 利哉				
滋野保育園保護者会長	馬場 真美				
東保育園保護者会長	田村 美絵				

1. あいさつ要旨（企画課長）

- ・前回の会合で、地域づくり活動の組織に関して、活性化研究委員会をベースとして、足りない部分を補完し、新たな組織を立ち上げていくことが、出席者の総意で合意に至りました。
- ・本日は、まず、前回の会合で提案された、この組織づくりにあたって弊害となっているとご指摘の地区活性化研究委員会」と「生涯学習まちづくり推進協議会」の一本化について、市としての回答をお持ちしているので説明させていただきたい。

- ・また、7回目の会議であり、今後の具体的な取り組み内容について、十分に意見交換をお願いしたい。

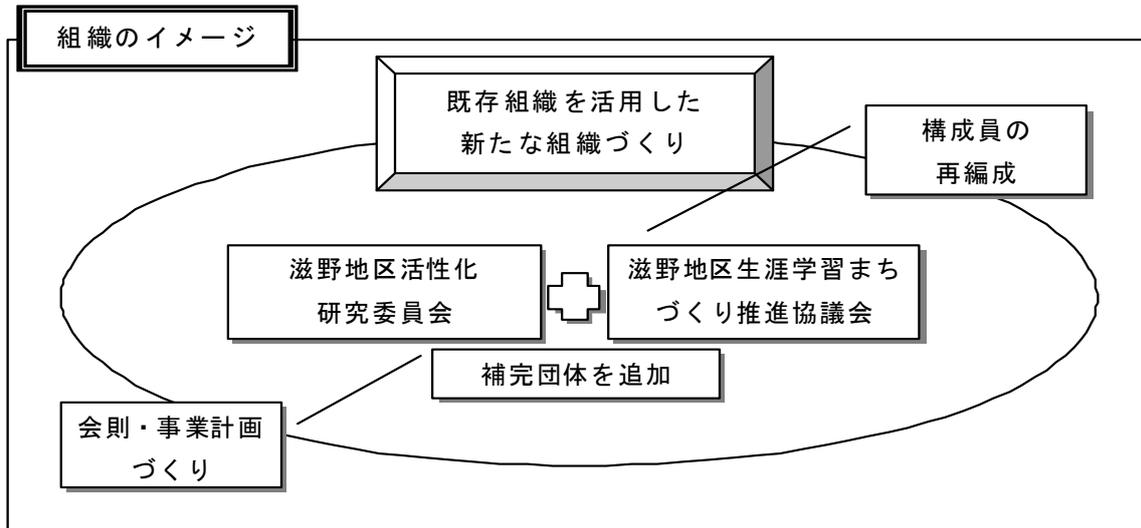
2. 前回提案された組織課題に対する市の方針について（小菅課長補佐）

滋野地区組織づくりの課題における市の方針結果について

平成 24 年 5 月 16 日（水）午後 7 時～ 9 時（第 1 回会議）

平成 24 年度第 1 回会議で、滋野地区を総括する組織づくりについて意見が交わされ、滋野地区地域づくり推進会議として一定の方針をまとめ合意された。

- 1) 滋野地区を代表する、2つの既存組織の「滋野地区活性化研究委員会」と「滋野地区生涯学習まちづくり推進協議会」を統合することを基本に進める。
- 2) 統合する組織の構成員を見直すとともに、補完団体、人材等を追加する中で滋野地区を総括する新たな組織、会則づくりなどを進める。



【市の調整項目】

- ・既存組織を統合し、新たな組織づくりを進めるにあたって以下の会則等の扱い及び組織の統合方針について調整する。

- 1) 滋野地区推進協議会会則、滋野地区生涯学習まちづくり推進委員会会則（地区毎に制定されている）

【市の方針、決定事項】

平成 24 年 6 月 12 日、定例庁議

- ・既存の会則（地区毎に策定）に捉われず進めることです承される。

以上のように、目的が達成されるなら組織を統合していくことは何ら問題ないと、決定されましたので報告します。参考までに既存の組織に係る役員・人員構成を示します。

【参考資料】

滋野地区活性化研究委員会

(役員構成及び構成員)

役職	人数	備考
会長	1	
副会長(庶務)	1	
副会長(会計)	1	
副会長(区長会長)	1	
幹事	4	
第1部会長	1	
第2部会長	1	
第3部会長	1	
第4部会長	1	
監事	2	
合計	14	
構成員	人数	備考
区長	10	
市議会議員	3	地区出身
農業委員	3	地区出身
農協役員代表	1	
商工会代表	2	
公民館代表	2	
PTA代表	1	
交通安全代表	2	
道の駅	5	
活性化委員	20	地区毎男女1名
学識経験者	8	
関係組織	3	
合計	60	

事務局 JA滋野店
関係機関 東御市企画課

滋野地区生涯学習まちづくり推進協議会

(役員構成及び構成員)

役職	人数	備考
会長	1	
副会長	1	
会計	1	
監事	2	
合計	5	
構成員	人数	備考
区長	10	
分館長	10	
推進委員	10	
小中校長	2	学校関係者
教育委員、社会教育委員	2	
小PTA、中PTA支部	2	
地区育成会正副会長	2	青少年育成会長
区育成会	10	副会長
小学校育成部長	1	諸団体代表
老人会長	1	
保健指導員	1	
民生児童委員	1	
商工会滋野支会長	1	
JA滋野支所長	1	
前教育長	1	知識経験者
合計	55	

事務局 滋野地区公民館(社会教育指導員)
関係機関 東御市教育委員会生涯学習課

既存団体を一本化する際の留意事項

- 1、各団体の規約、会則などで定めている目的及び任務などの継承
- 2、団体の統合に合わせ、地区を総括する組織づくりの検討
- 3、新たな規約、会則などの策定

* 規約の中に滋野地区生涯学習まちづくり推進協議会会則の内容も考慮し策定する必要がある(補助金)

- 4、活性化の事務局(JA)、生涯学習まちづくり推進協議会の事務局(公民館社会教育指導員)の位置づけ

3. 地域づくり活動等推進交付金について（掛川）

<省略>

4. 意見交換

事項・発言者	発言内容
<p>(意見1) 事務局</p>	<p>生涯学習まちづくり推進協議会は、市の助成だけで運営されているのか。 詳細は把握していませんが、市からは年額 120,000 円の助成金が交付されています。</p>
<p>(意見2) 事務局</p>	<p>活性化委員会は助成金のほか、各戸 100 円を徴収し収入に充てている。生涯学習まちづくり推進協議会が補助金のみで運営されていた場合、仮に一緒にすると、このあたりの取扱いをどう調整していくのか、問題になるのではないかと。 前回の会合でも確認されていますが、市が一本化させようとしているものではありません。 皆さんから、今後の地域づくりを考える中で、同じような構成メンバーが集う「活性化研究委員会」と「生涯学習まちづくり推進協議会」を一つにして、滋野地区のまちづくりを考える新たな組織をつくっていききたい、という意見を受けたものですから、そのご要望に対しての市の回答として申し上げたものです。 また、地域づくり活動交付金についても、地域づくりを進めるにあたって組織された団体等へ、地域づくりを研究するための資金として助成するものであります。 前回の会合でこの推進検討会議をその推進母体としていくことが確認されていますので、まさに交付金の受け皿団体としていこうとするものです。 あらたに組織されるであろう“地域づくり活動団体”へ恒久的に助成していく趣旨の交付金ではありませんので誤解のないよう願います。</p>
<p>山崎 アドバイザー</p>	<p>前回、出席できなかった委員もいますので、話が混同しないように整理させていただきます。新たな地域づくり組織の構築は、この一年間をかけて、この検討会議でじっくり話し合っていこうとなっています。</p>
<p>事務局</p>	<p>また、活動交付金については、この推進検討会議が、「滋野地区ふれあいの集い」を一つの候補として、何かイベントを企画し、そこに充てていこうとなっています。この点は、前回会議までに話し合われた結果であることを確認させていただきます。 組織を一つにしていくことについては課題があると思います。先程もふれましたが、活性化は事務局がJAであり、生涯学習まちづくりは社会教育指導員です。加えて、指導員は決められた日数の範囲で、かつ、生涯学習に特化して従事いただいていますので、それ以外の業務も引き受けていただけるかといったら、今の時点ではそうはできません。組織の発足を来年度4月1日とすると、そうした課題をどのようにクリアしていくかということも、ご議論いただき、結論付けなければなりません。 その中で、前回の会合のように、行政の仕組みに係る部分は行政が解決するというように進めていく必要があると考えています。</p>

<p>(意見2)</p>	<p>また、組織の検討は、全体で議論するのか、小委員会的な部会を設けていくのか、といったことも課題であると思います。</p> <p>組織づくりに関しては、全体で話し合いをもっともうまくいかないと考えます。タキ台として案をつくるメンバーを募って進めていったら如何でしょう。</p> <p>活性化委員会から数名、まちづくり協議会から数名で、小委員会を設けていくのは如何でしょう。</p>
<p>(意見3)</p>	<p>今、発言があったように、双方で小委員会形式をとるのは有効だと思います。活性化研究委員会、まちづくり協議会、それぞれどのような形態で、どんなことをやっているのか、予算規模はどうなっているのか、互いに全部理解している訳ではないと思います。双方の活動内容を明らかにしていくことが必要でしょう。</p>
<p>(意見4)</p> <p>事務局</p>	<p>また、小委員会については10名程度で行うことが効率的と考えます。</p> <p>本年は、(検討する組織はつくっていくが)今までどおり、「活性化研究委員会」と「まちづくり協議会」は別々に存在するという理解でいいですか。</p> <p>はい。そうです。</p> <p>また、仮に(前回会議で話し合われたように)4月1日に既存組織の2つが一緒になったとしても、今まで活性化への補助金はそのまま継続しますし、まちづくり協議会への助成金も、生涯学習まちづくりの推進を担っていく組織であることが明らかであれば継続します。</p>
<p>(意見5)</p>	<p>つまり、新たに立ち上がる組織が、それぞれの事業目的を達成する活動を担っていけば、2つの補助金の一つの組織に交付されるとお考えください。</p> <p>今までもそうだと思いますが、いつまでも議論していても結果が伴わなければ、また来年、その先、というようになって一向に形になっていかないと思います。早急に小委員会を立ち上げ、本年度内に結論づけていきましょう。</p>
<p>(意見6)</p> <p>事務局</p>	<p>公民館の社会教育指導員にも承知していただく必要がありますが、市から話はいっているのでしょうか。</p> <p>現時点ではしてございません。本日の会議で方向性が出れば、市としての考え方の方向性が出ていますので、相談していきます。</p>
<p>山崎 アドバイザー</p>	<p>新しい組織のイメージですが、今、お集まりいただいている方がそのままスライドして新組織に属すると理解していいのでしょうか。</p> <p>また、この検討会議はどうなるのでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>今、お集まりいただいている皆さんは、活性化とまちづくりいずれかに属している皆さんですから、基本的に新しい組織のメンバーになっていくというイメージをもっています。ですが、組織の継続性を考えた場合、(皆さんのお考えによりませんが)当て職のメンバーでいいのかとの議論はあろうかと思います。</p> <p>また、検討会議については、新たに地域づくりを担う組織が構築できた段階で役割は終了することになります。</p>
<p>(意見7)</p>	<p>組織を一本化する議論に関して、それぞれ目的も違う、内容もまったく異なるものを一つにすることは難しいと考えます。そのあたりはどうなんですか。</p>

事務局	それを皆さんで話し合い、考えていくことが課題だということです。先にもふれましたが、市が一本化を進めているのではありません。皆さんが、地域づくりを進めるにあたって一本化する必要があると判断されたから、行政も一本化できるよう調整を図ったのです。
(意見8)	小委員会で話し合ったうえ、無理であろうと結論付けられたら別ですが、皆の総意で一本化を目指したのだから、手戻りしないことが必要だと思います。
河野 アドバイザー	私が考えるに、同じ地域で活動する団体なのに、なんで2つに別れてるの、といったほうが疑問です。生涯学習という滋野地区があって、地域活性化という滋野地区があるんだったら別にあってしかりですが、そう考えるのが普通じゃないですか。
(意見9)	<p>新しく組織を作ることは、それはいろいろと問題があるでしょう。問題があっても、一本化によって進めていくほうがいとみんなで判断したことです。</p> <p>前回会議の結論をひっくり返すような発言は慎んでいただきたいと思います。</p> <p><以下、前回会議の繰り返し議論のため、中略></p>
山崎 アドバイザー	小委員会で話し合いを進め、その結論をこの検討会議に報告いただければ、一本化に向けた方向性も見えてきますから、具体的に組織を検討する小委員会の方法について意見を求めたいと思います。
(意見10)	<p>組織を検討する小委員会の案を申し上げたいと思います。概ね10人として、区長、会長、活性化委員長、公民館長、市議会代表1名、みちの駅駅長、コミュニティーセンター長、PTA代表、育成会会長、農協代表、民生委員滋野地区会長を提案します。</p> <p><提案内容の協議 中略></p>
(意見11)	小委員会の検討にあたっては、それぞれの団体の事業報告や決算状況などの資料を持ちよって、お互いの取り組み内容を明らかにして進めていくことが必要だということも付け加えたいと思います。
事務局	<p>それでは、今ご提案のあった10名に、それぞれの事務局を加え、統合へ向けた組織づくりの議論をいただくよう進めるということでいいでしょうか。</p> <p>また検討経過は、必要の都度、この検討会議へ報告していくよう進めていきますが、皆さん宜しいでしょうか。</p> <p><全員賛成></p>
事務局	<p>それでは次に、前回までの検討会議で話し合われてきた、地域づくりを進めていくために、この検討会議で取り組んでいく事業に関して、議論を進めたいと思います。</p> <p>(意見12) ご提案します。前回までは滋野地区に残していきたい昔の遊び、昔の食文化について議論していきました。それらを踏襲する中で、子どもさんたちに楽しんでもらえるよう、この場所を会場にして昔の遊び、昔の食文化のイベントをやったらどうかと考</p>

<p>(意見13)</p>	<p>えませんが如何でしょうか。</p> <p>活性化の子ども部会では、育成会やPTAの皆さんと例年いろんな取り組みをしていますが、その内容を充実させ、またテーマも絞って、子どもとのふれあいを地域全体で進めようと、考えたものです。</p>
<p>(意見14)</p>	<p>ふれあいの集いと併せて開催するよう考えたのですが、会場が手狭になるということもありますので別にして、高齢者と子どもとのふれあいをメインテーマに、昔遊びと昔の食の伝承も含めた中で、広く地域の皆さんの参加を募り取り組めたら、地域づくりの主旨にも合致すると考えています。</p>
<p>山崎 アドバイザー</p>	<p>前回までの会議では、活性化委員会の取り組みをベースにこの検討会議で取り組んでいったらどうかという話があった訳ですが、今、具体的な提案がありました。如何でしょうか。</p>
<p>(意見15)</p>	<p>この提案でネックになる部分は、スタッフであろうと思っています。昔遊びにしろ、昔の食にしろ、例えば“おやき”をつくるにしても携わっていただける方をどう見つけていくか、例えば人材バンク的な制度や市のボランティア登録があるのかどうか、また協力いただけるのかどうか、課題であろうと思っていますが、どうでしょう。</p>
<p>事務局</p>	<p>市の登録ボランティアや団体にお声掛けをするのでなく、この滋野地区で人材を探し出しては如何ですか。滋野地区にも（知らないだけで）人材はたくさんいると考えます。人と人のつながりを通して、人が人を呼んでくるように考えられないのでしょうか。</p>
<p>(意見16)</p>	<p>昔遊びに関して言えば、例えば竹馬づくりは、誰もが経験したことのある遊びであり、多少時間はかかりますがつくることもできます。そうやって自分たちで考えていくことが必要だと思います。人材だって“人つながり”によって探していけばいいのではないですか。</p>
<p>(意見17)</p>	<p>人材も含め、具体的な内容は、活性化の子ども部会で協議し、次回の検討会議にタタキ台を提案し、皆さんのご賛同を得たいと思いますが、如何ですか。</p>
<p>山崎 アドバイザー</p>	<p>今提案されたように、この地域でいろんな人材を探し参加を求めると、滋野地区ボランティアマップのような作り込みが可能になります。そうやって滋野地区における人材の和を広くしていくことも重要だと思います。</p> <p>次回は、子ども部会の皆さんの作成されたタタキ台の提案を受け、具体的に交付金の使い道も含めた議論を進めるようにしたいと思いますが宜しいですか。</p> <p><異議なし></p>
	<p><アドバイザーから地域づくり先進事例の報告（別紙）></p>

4. その他

次回会議、7月18日（水）で決定

5. 閉会（企画課長）